

平成28年第9回教育委員会定例会

新 十 津 川 町 教 育 委 員 会 会 議 録

平成28年9月16日 開会

平成28年9月16日 閉会

新 十 津 川 町 教 育 委 員 会

## 平成28年第9回教育委員会定例会

平成28年9月16日（金）  
午後4時00分 開会

### ○ 議事日程

- 1 開会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 行事報告
- 4 報告事項  
報告第34号 平成28年度町内小中学校在籍児童生徒数（9月分）について  
報告第35号 平成28年度全国学力・学習状況調査結果について
- 5 その他
- 6 閉会

### ○ 出席者（5名）

久保田 純 史  
熊 澤 定 男  
阪 口 徳 幸  
新 田 右 子  
荒 山 直 人

### ○ 欠席者（0名）

### ○ 職務のため出席した者の氏名

事務局長	遠 藤 久美子
主 幹	内 田 充
学校教育グループ長	坂 下 佳 則

### ○ 開会及び開議の宣告

### ◎久保田教育長

ただいまより、平成28年第9回教育委員会定例会を開会いたします。

### ○ 議事日程の報告

◎久保田教育長

本日の日程は、お手元に配布しております議事日程により順を追って進めて参ります。

○ 会議録署名委員の指名

◎久保田教育長

日程第2、会議録署名委員の指名を行います。本日の会議録署名委員の指名につきましては、阪口、新田両委員を指名しますのでよろしく願いいたします。

○ 諸般の報告

◎久保田教育長

続きまして日程第3、行事報告を議題といたします。事務局より報告願います。

◎遠藤事務局長

それでは、行事報告につきましては、内田主幹より説明申し上げます。

◎内田主幹

それでは、お手元の行事報告をご覧いただきたいと思います。平成28年9月1日から本日9月16日までの行事をまとめておりますので、ご説明申し上げます。最初に9月1日、後木祥一氏北海道社会貢献賞授賞式。札幌市かでの2・7で北海道青少年育成大会全道大会が開催され、本町の剣道指導者、後木祥一氏が青少年健全育成功労者として北海道社会貢献賞を受賞されました。全道からは14名の方が表彰されております。続きまして、9月3日、北海道吹奏楽コンクール。新十津川中学校吹奏楽部が、札幌コンサートホールKitaraにおいて開催されました第61回北海道吹奏楽コンクールに出場し、A編成の部でこれまで3年連続銅賞でございましたが、4年目で見事銀賞を受賞いたしました。同じく9月3日、チャレンジスポーツ2016。スポーツセンターにおいてスポーツ体験教室を開催いたしました。参加人数は、新十津川小学校児童小学1年生から6年生までの43人、指導者は教育委員会事務局職員2名をはじめ、町スポーツ推進委員2名、とっぷ子どもゆめクラブ講師4名、スポーツクラブ2名の合計10名となっております。また、今年もシニアリーダーアザレアから3名のお手伝いをいただいております。9月4日、獅子神楽町内巡行。獅子神楽保存会会員34人、町中学生2人により獅子舞を披露いたしました。新十津川小学校の特別クラブ児童14人も、大和方面、新十津川神社などで獅子を舞いました。9月5日、新十津川町・雨竜町子どものいじめ対策委員会が改善センターで開催され、久保田教育長から5名の委員に委嘱状が交付されました。また、委員長に新十津川町の金行健次さん、副委員長に雨竜町の安田隆則さんがそれぞれ選任されました。9月14日、十津川中学校修学旅行生来町、修学旅行生歓迎会。14日から15日まで、十津川中学校3年生24人、引率6人が修学旅行で本町を訪れました。14日は、旭山動物園などを見学後、本町に戻り、役場訪問、除雪センター、ライスボックス、図書館、物産館を見学、翌15日は、菊水公園、開拓記念館などを見学し、新十津川中学校3年生と交流を行い、お昼に本町を出発いたしました。本日、十津川村へ帰村予定でござ

います。次に少年団活動の結果についてご報告申し上げます。9月3日、4日、滝川市で開催されました2016空知ちびっ子野球3、4年生交流大会において、新十津川町中央野球スポーツ少年団が優勝をしております。9月4日、新十津川サッカー場において開催されました第23回アジアカップ争奪U-9少年サッカー大会において、新十津川サッカー少年団2、3年生が第3位となっております。9月10日、11日、芦別市で開催された平成28年度全道少年U-11、8人制サッカー大会におきまして、第3位となっております。以上、行事報告とさせていただきます。

◎久保田教育長

説明が終わりました。質疑はございませんか。

(「なし」という声あり)

◎久保田教育長

それでは、ないということですので、行事報告を報告済みといたします。続きまして、日程第4、報告事項を議題といたします。報告第34号平成28年度町内小中学校在籍児童生徒数(9月分)について事務局より説明願います。

◎遠藤事務局長

それでは議案書3ページをお開きください。表をご覧ください。9月1日現在、小学校313名、中学校185名、合わせまして498名の在籍となります。なお、先月と同数でございます。以上、報告34号の説明とさせていただきます。よろしくお願いを申し上げます。

◎久保田教育長

報告34号平成28年度町内小中学校在籍児童生徒数(9月分)についての説明が終わりました。質疑はございませんか。

(「なし」という声あり)

◎久保田教育長

なしということですので、以上をもちまして、報告34号平成28年度町内小中学校在籍児童生徒数(9月分)についてを報告済みといたします。続きまして、報告第35号平成28年度全国学力・学習状況調査結果について事務局より説明願います。

◎遠藤事務局長

それでは5ページをお開きください。内容は別紙のとおりとなりますので、6ページをお開きください。1として、調査の目的です。1つ目、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。2つ目として、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。3つ目、以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。2調査の対象ですが、小学校第6学年及び中学校第3学年でございます。3調査の内容ですが、(1)として、教科に関する調査、これは、国語、算数又は数学となっております。アは、主として知識に関

する問題は、国語Aと算数又は数学のA問題となっております、イ主として活用に関する問題は、国語のBと算数又は数学のBの問題となっております。（2）質問紙調査ですが、児童生徒に対する調査でございます。4番目、調査の方式、悉皆調査。これは全ての子どもに対する調査となっております。5番目、調査期日ですが、こちらにつきましては、28年、本年4月19日に実施しております、全国で統一した日にちが定められ、それに基づきこの日に実施をしております。6番目、参加状況でございます。小学校については50人、中学校は55人の子どもが検査を受けております。7番目として、教科に関する調査の結果です。（1）としまして、正答率及び正答数です。表をご覧ください。小学校では、平均正答率として町のところが黒字で表されております。1番、表の下段の方に全道平均との比較、全国平均との比較の欄がありまして、◎はそれらが平均を上回ったものが◎となっております、小学校では算数B以外で全国平均を上回り、全道平均と比較しますと、全科目が全道平均を上回っております。また、中学校は、全国、全道全ての科目で下回っております。次に（2）の標準化得点比較をご覧ください。こちらは全国の平均正答数を100として、新十津川の小中学校が平成25年度から今年28年度までを標準化した得点としております。小学校につきましては、平成26年に次ぐ良い成績となっております。中学校につきましては、この4年間で1番低い得点となりました。また、平成25年の小学校で受験した子どもが今年の中学校3年生でございますので、左の小学校の25年のときの数字を見ていただきますと、98.0、97とありますが、この子どもたちが今年の中学3年生です。この数字だけを見ますと、全国と比べまして同じような位置にいるのではないかということが分かります。続きまして7ページ、ご覧いただきたいと思っております。こちらにつきましては、全国平均正答率との比較ということで、グラフに表しております。全国平均正答率との比較ということで、平成20年からの9年間を折れ線グラフで示しております。表の真ん中、グレー色のゾーンが全国平均正答率でございます。☆マークが新十津川町、●が空知、○が全道となっております。今年度につきましては、まだ空知の状況は公表されておられません。それと平成23年は、全国の調査は実施されておられませんので、そこは空白となっております。今年度の状況ですが、小学校につきましては、国語Bが全国よりも4ポイント高いということで、この4教科の中では特別に良い点数ということがこれで見て取れます。また、下段の中学校につきましては、今年は軒並み低い状況ではありますが、こちらは反対に国語Bが1番正答率で言いますと5.5ポイントも低いということになっております。これも、上の小学校の25年の子どもたちが今年の中学3年生ということを見ますと、似たようなところにいるのかなという気はします。続きまして、8ページをご覧ください。こちらはですね、（4）分類別集計結果といたしまして、先ほど言いましたA、B、国語、算数の中でも、もっと詳しく全教科をチャート図にしております、より詳しく分析したものでございます。全国平均を100として、黒で全国平均を表しております、本町は赤の折れ線グラフ、北海道は青線というふうになっております。赤い円が外に広がっていれば点数が良い、全国平均よりも上回っている、得意な分野といえます。赤い線が内側に入っていると、ちょっと不得意というふうに分かります。上段が小学校になっておりますが、小学校につきましては、国語Aの書くことが不得意分野ということに、これでいくとなります。また、中学校、下の表になりますが、中学校につきましては、数学Bの図形が著しく内側に入っておりますので、ここが特に不得意ということが読み取れます。小学校と中学校では若干問題の傾向が違ってですね、この国語Bでもかっこ書きで図形だとかいろいろ書いていますが、小学校と中学校ではまるっきり同じではなくて、ちょっと変わってきます。特に算数は中身が変わってくるので、比較としては正しいかどうか分か

りませんけれども、この中学3年生が小学生のときはですね、国語Aの話すこと、聞くことは良かったというふうな分析だったんですけれども、中学校での話すこと、聞くことは、ちょっと今低い点数になっております。中学と小学校では問題の傾向も違うので一律には比較はできませんけれども、一応そういうような状況でございます。続きまして9ページご覧ください。こちらにつきましては、児童生徒の学力ではなくて質問紙ということで日常的な生活のリズムですとか勉強の仕方だとか、そういうことについての調査をし、それをもとに経年変化の状況についてまとめております。こちら平成20年からの状況を折れ線グラフで表しております。項目がいっぱいある中で11項目を抽出し表にしております。こちらの分析などにつきましては、今、各学校で詳細に分析、考察を行っているところでございまして、これは本当にアンケートの集計のみのということになっておりますが、11ページの方をご覧くださいますと、11ページ上段の問いが、読書が好きと回答した児童生徒というのがありまして、これも上がったりと下がったりというところですが、先ほど言いましたように、今年の中学生在が全国、全道よりは低い状況ではありますけれども、中学生のパーセントを見ていただきますと、68パーセントですが、この子どもたちが平成25年の小学6年生のときを見ると、著しく低い、読書が好きと回答した子が57パーセントぐらいですかね、著しく低い年だったんですが、まあその子が中学生になって、今現在、ずいぶん上がってきていますので、これを見ると良い傾向かなというのは読み取れます。この全国学力状況調査結果につきましては、教育委員会に8月下旬に届いておりますが、全国的な公表日が今年、中学校の集計結果に一部集計ミスがあったということで、まだ公表されておられません。9月29日に公表するというのが今日の新聞にも出ておりましたけれども、例年ですと教育委員会にお知らせするときには、公表日を過ぎてからの報告でしたが、今年そういう事情で公表日が遅れておりますので、一応ご配慮いただきたいと思っております。以上、報告第35号の内容の説明とさせていただきます。よろしくお願いを申し上げます。

#### ◎久保田教育長

報告第35号平成28年度全国学力・学習状況調査結果についての説明が終わりました。質疑はございませんか。

#### ◎阪口委員

この表やグラフを見ていたら、成績が悪いというのは家で勉強をしているか、していないかの違いなんではないでしょうかね。こうやって見ていたら、宿題をしているとか予習に取り組んでいるとか。

#### ◎遠藤事務局長

これは多分きっと今までも言っていると思うんですけれども、もちろん関係あると思いますが、私も思ったのはですね、この質問のポイントです。この9ページの質問は、全部家で予習、復習、宿題をしているという質問なんですよね。そこがポイントだなと思って、例えば小学校などの場合ですね、放課後児童クラブで児童館に行くだとか、あとですね、図書館で勉強している子はいないだろうと学校側は言っていましたけれども、あと学校の授業が終わったあとに教室に残ってやるとか、その例えば剣道の武道場に行く前に、家に帰らないで教室に残ってやっている子もいるとか、まあ剣道に限らないかもしれないけれども、そういう話も聞こえてきますので、まあこの質問だけを見ると、この棒グラフを見ると、ちょっとまあ低いのは低いんですけれども、極端に言うと家で

はしていないけれどもどこかでしているとか、家ではしていないが、本当に宿題を忘れてくる子の中にはもちろん、たまに忘れる子ももちろんいるんですけども、まあそういう子はですね、学校で休み時間にやらせるだとか、まあもしかしたら放課後やらせるか分かりませんが、そういう対応をしているということで、塾に通っている子の中にはもちろんおりますから、塾で宿題や予習、復習をやっているというふうにみなせば、家ではあまりしないけれどもそこでやっているだとか、まあそこら辺のことはちょっと何ともこれだけでは言えないんですけども。ちなみにですね、一応今回のアンケートで、塾に通っている子は小学校で28パーセント、中学校で41パーセントの回答がありましたから、頻度は分かりませんが、週に1回なのか何なのかは分かりませんが、通っている子もそれなりにいるのはいます。

◎阪口委員

そうですね。うちの子どもたちも通っていました。

◎遠藤事務局長

ああ、そうですね。何とも言えないですね。ここが高い方がいいのではないかとはい思います。

◎新田委員

じゃあこのアンケートを家でというふうにしちゃうとちょっと分かりにくいので、例えば学校の授業以外で勉強をしているっていうふうにした方がいいんじゃないですかね。

◎遠藤事務局長

そう思いますよね。

◎阪口委員

そうですね。

◎遠藤事務局長

私もそれがいいと思うんですけど。それは国に、疑問、要望を。

◎久保田教育長

国に。町では決められない。全国の統一質問。

◎遠藤事務局長

あえて家でということにこだわりがあるのか、その意図ですよ、質問の意図とか、主旨だとは思いますが。家にこだわる必要がどこにあるのかなと私もちょっと思いました。

◎久保田教育長

そのようなことで、毎年、生活習慣ということで、通学合宿というようなことも11月にやって、サライとかヴィラ徳富で合宿をしても、そういう小学生、6年生を対象に家で勉強する習慣をつけましょうということで教育委員会でも取り組んでいるところなんですけれども。

◎久保田教育長

ほかにございませんか。

◎熊澤委員

小学校のこのチャート図の、例えば国語Aというのは、ずいぶんへこんだ図になるけれど、危機的な状況というわけではないのですね、点数から言うと。

◎遠藤事務局長

小学校、はい。このチャート図で見ると何か『書くこと』が折れているんですけども、この6ページにありますように、国語は、基本的には、この小分類でいくと折れますけれども、トータルすると国語AもBも全国平均を上回っておりますので、でも国語Aの中でも細分化するとやっぱり弱いところと得意なところが見えてきます。細分化されてこういうふうにならば、ここを重点的にやるというようなことに使えるんですね。この部分を集中して教えるということになると思います。

◎熊澤委員

全国からみれば、ちょっと弱いのかなということは判断できると。

◎遠藤事務局長

そういうことです。

◎熊澤委員

まあ、問題そのものがどうかな、という感覚でいたら、道の平均が全国の平均というのは見事な円になるということは、この問題がすごい、素晴らしくできているんだなという気がしますよね。問題がちょっと、何と言うんだ、どちらかに偏っていると、全国平均も偏るはずですよ。これがすごい円になっているということは。逆から言うと、飛び出しているところはものすごくいいということですよ。

◎遠藤事務局長

そうですね。

◎熊澤委員

中学生の方の、小学校のときから悪いというのはちょっとね。今まで結構、小学校で悪くても中学校で良くなるというのはあったんだけど。何かこのタイプは、初めてかな。

◎遠藤事務局長

すみません、ちょっとここで補足を説明させていただきますと。

◎坂下グループ長

現在の中学校3年生ですけども、下位層の割合ですとか、上位層の割合を調べてみたんですが、ほかの年代に比べると、下位層の割合が若干多いというような傾向がござ



いまして、それで全体的な平均点数も低くなっているのかなというふうに思っております。ただ、それでも、小学校のときの下位層の割合に比べると中学校の下位層の割合というのは減少傾向にありますので、若干は改善されているのかなというふうに見て取れるかなと思います。以上です。

◎熊澤委員

そういう構成というのは必ずありますよね。平均しているところは、だいたい成績が良いですね。

◎久保田教育長

ほかにございませんか。

◎熊澤委員

これ、たまたま当たった先生によるということはないですよ。

◎久保田教育長

中3の教科ということですか。

◎熊澤委員

はい。まあ小学校のところの比較と分からないけれど、たまたま小学校のあたりで。

◎新田委員

小学校のときからの、先生の。

◎熊澤委員

うん、そう、基礎的なことが、例えばこの図で言えば、まあ同じじゃないから比較にならないけれど、書くことが比較的苦手な状況にあったときに中学校に来て反映されないかなと思ったりして。そんなに、まあこれは同じ生徒じゃないけれども、前のときの、小学校5年生のときの同じ図があれば面白いですね。

◎遠藤事務局長

この中3が小学校のときのチャート図はこれですね。

◎阪口委員

ちょっと違うんじゃないですか。

◎熊澤委員

想像とは違いますね。

◎荒山委員

問題にもよりますよね。

◎遠藤事務局長

まあもちろん、それもあるんですけども。

◎阪口委員

へこんでいるところは似ている。

◎新田委員

こうね、ここ、このへんがちょっと弱い。

◎遠藤事務局長

ここがこう高かったんですから。

◎新田委員

ここが高かったのに、まあ。

◎遠藤事務局長

そうですね。

◎阪口委員

突出していたのにね。

◎熊澤委員

まあ小学校と中学校では全然問題が違うから話にはならないにしても。わりと書くこととか良かったんですね、小学校時代は。

◎遠藤事務局長

読むことが不得意なんですけれど、まあこのときはまあ普通、普通というかそれなりだと思うんですけれど。ちょっと下がったと思うんですね、これね。

◎熊澤委員

何か自分の経験で判断すると、小学校の、このころに書けなかったのは、もうずっと引きずるような気がするんですね。未だに引きずっているみたいで。なかなか書くことって小さいうちにいっぱいやっておかないと。だから、そういうものがないかなと思って見ているんですが、これではちょっとわけが分からなくなる。

◎久保田教育長

いずれにしても、調査の目的にありますように、またそれぞれ学校の方で分析をしていただいて、その課題を検証し、小学校6年生は中学校にも進学しますし、中学3年生はすぐ受験がありますので、その辺の分析と改善策について、また直近の定例校長会で私からも指示したいと思っております。

◎熊澤委員

まあ当然、苦手なところは力を入れてやってくれるんだろうけれど。

◎久保田教育長

そのほか、ご意見ございませんでしょうか。

◎久保田教育長

よろしいですか。

(「はい」という声あり)

◎久保田教育長

それでは、今の委員さんの意見を踏まえまして、また指導を学力向上に向けてですね、徹底するように進めていきたいと思っております。以上をもちまして、報告第35号平成28年度全国学力・学習状況調査結果についてを報告済みといたします。続きまして、日程第5、その他を議題といたします。まず、私から1点報告いたします。去る9月9日に行われました平成28年第3回新十津川町議会定例会におきまして、新十津川町教育委員の任命についての人事案件の議案が議会に上程されました。これにつきましては、阪口徳幸委員が今月末で任期満了となりまして、阪口委員におきましては、是非とも再任を私から依頼していたところでございますが、ご都合によるご本人の辞意が固く、新聞報道にもありましたように、後任に文京区に現在ご在住の近藤陽介氏の任命について町議会の同意をいただいた次第であります。阪口委員におかれましては、平成24年10月1日から1期4年間、本町の教育行政の振興のため大変お世話になりました。また、旧吉野小学校改修後の施設、風の美術館の管理運営におきましても、地元の施設ということでご愛着をもっていただき、ご理解ご協力を賜りましたことに対しましても深く感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。以上、人事案件に係る私からの報告といたします。続きまして、事務局から説明願います。

◎遠藤事務局長

それでは、私の方から今後の日程を確認したいと思います。まず、来月の定例会は10月21日金曜日ということですのでよろしいですね。

(「はい」という声あり)

◎遠藤事務局長

次のその先の11月の日程ですけれども、昨年につきましては、11月24日に開催しております。11月下旬に何かご都合の悪い日のある方は。

(「なし」という声あり)

◎遠藤事務局長

では、24日に定例教育委員会ということで考えさせていただきます。

◎久保田教育長

今日、定例会最後になります阪口委員さん、ひと言お願いします。

◎阪口委員

私、今月いっぱい4年間という短い間でしたけれども、皆さんにご協力いただきまして、なんとかやってきました。本当にありがとうございました。本来ならもう少し自分の

気持ちとしては、2期は最低はやりたいたいという気持ちはありましたけれど、家庭の都合等で本当にできなかったことをちょっと残念に思っております。これからもますます教育委員会がご発展されることをご祈念申し上げまして、私からの退任の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

◎久保田教育長

それでは、以上をもちまして、平成28年第9回教育委員会定例会を閉会いたします。

(閉会 午後4時50分)

会議の顛末を記載し、その旨相違なきことを証するためにここに署名する。

会議録署名委員 新 田 右 子

会議録署名委員 阪 口 徳 幸